

所属・資格 社会福祉学科・教授

申請者氏名 井上 仁

研究課題		子どもの権利基盤に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>社会的養護における若者支援、地域における子育て支援の問題、グローバルな視点からのフィリピン子ども支援活動、地域子ども学習支援活動などを通じて、ボランティア実践活動から課題を浮き彫りにし有効な支援とはなにかについて調査研究し考察。</p> <p>自治体の社会福祉審議会での審議などを通じて、政策の課題や自治体における子ども子育て支援のサービスなどの実態を明らかにし、子育て支援や子どもの権利擁護の実現に向けた取り組みなどの研究。</p> <p>社会的養護の若者支援では、会的養護の制度改革などが子どもの権利擁護のセーフティネットがどのように影響するか考察、シンポジウムの開催) するなどして考察研究を進めた。</p>
	研究の結果	<p>社会的養護の若者支援では、施設里尾を単立った若者参画を得て、相談支援のためのガイドブックを作成し児童養護施設等に配布を、施設後の支援のあり方について若者の意見聴取および施設関係者からの意見聴取を行った。</p> <p>フィリピン子ども支援では、学生ボランティアとともに現地訪問・交流を行い支援(大学等進学資金)として奨学金の効果について検証を行った。単独支援後、6年を経過し卒業生の多くが教員として自立を果たし、次の世代の人材育成に関わるなど地域の貧困連鎖からの脱出に効果のあることが確認できた。</p> <p>子どもの権利擁護や若者支援については、世田谷区の委員会等の参画からフェアスタート事業の課題と効果について浮き彫りにしつつあり。</p>
	研究の考察・反省	<p>施設・里親を単立った若者支援では、ガイドブックの継続の課題(若者参画による編纂体制の維持)や継続配布の課題などが残る。行政に委ねるなどの方法により、継続的なサポートができるようにしていくなどの課題が残った。</p> <p>フィリピン支援では、支援規模の拡大など学生ボランティア活動の在り方の検討が求められている。継続的支援を組織的行うことで、課題や効果の検証ができるので組織を検討したい。</p> <p>子どもの権利擁護や若者支援では、居場所づくりの定義化や運用、虐待児童の救済における相談機関の在り方など、権利に関わる課題と事象が増えているので整理する段階。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>第6回 施設・里親を単立った若者の自立についてのシンポジウム 世田谷区と共催 若者の自立と居場所支援 2018年12月16日 日本大学文理学部国際会議場</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		